

法友

かわらばん

No. 2

発行日 2020年11月30日

発行

大阪弁護士会法友倶楽部

幹事長 大橋さゆり

編集者

法友倶楽部広報委員会

委員長 満村和宏

編集長 藪根壮一

印刷 (株)耕文社

表紙題字 故 滝井繁男先生

自治組織・弁護士会を支える
法友倶楽部として顔の見える関係を、
継続的に作りたい。

令和2年度 法友倶楽部幹事長 大橋さゆり (51期)

法友倶楽部とはどんなところ？
……大阪弁護士会に登録する新人
弁護士の方々へのガイダンス。
ここで、各会派の紹介をする時間
をとっていただく試みを昨年度か
ら行っています。



各会派の紹介を一覧表にしたものを配付します。
すると、なんと法友倶楽部は年会費が一番高い
(2万4000円、ジュニアは1万2000円)。一覧にされると
目立ちます。

本当は、親睦行事への助成や、夏のビアパーティで
のビンゴ豪華賞品などで、行事に参加される方には還
元しているのです(今年度はやむなく控えましたが)。
また、期別の寄付金や役職者寄付金ありません。

しかしそんなことを一覧表の小さい枠に書き込むこ
ともできず、ジュニア代表にも相談しまして、「大阪
弁護士会を支える人材の輩出母体ないし政策団体」か
つ「会員相互の幅広い交流を目的とした親睦団体」
「研修の開催や弁護団事件の声かけ」「研鑽の機会も多
く、若い期の方でも居心地がよく」と並べることにし
ました。どうでしょう？

法友の各委員会では、知恵を絞ってこのコロナ情勢
の下でも企画を考え実施しています。会費を払って支
えてくださる皆さん。ぜひ、自分にもみんなにも役に
立つアイデアを出してくださいね。

幹事長へのDM、OKです。

副会長 会務報告(番外編)
今、悩んでいるあなたへ

令和2年度 大阪弁護士会副会長 森 直也 (53期)

令和2年度副会長として担当し
ている分野の一つに「自治部門」が
あります。4月の就任以降、既に
懲戒処分が二桁を超えようとして
います。また、本年度は会員が逮
捕される事案が複数発生しました。



市民窓口や紛議には、日々弁護士の事件放置や、預り
金の流用等の事案が寄せられています。新型コロナウ
イルスの蔓延により、業務が立ち行かなくなり、会員
がメンタルダウンを起こしている事案も散見されます。

今、この原稿を読んで下さっている会員の中にも、
もしかしたら、苦しい状況に追い込まれている方がい
るかも知れません。何かをきっかけに、受任した事件
を放置してしまい、立ち行かなくなっている方、事務
所運営費や生活費が足りなくなり、預り金に手を出し
てしまった方……。そんな状況に追い込まれている方
に、どうしても伝えたい。

まだ、間に合います。

あなたには、少なくとも頼るべき同期や先輩・後輩
がいます。このまま状況を放置したくなる気持ちは分
かります。でも、そうしていても決して状況は良くは
なりません。依頼者にこれ以上迷惑を掛けないため
にも、勇気を出して相談して下さい。勿論私でも構いま
せん。一人で抱え込まず、誰かに相談して下さい。困
っている人を助けたいという弁護士を志した初心を思
い出して、やり直す道を探して下さい。必ず道はあり
ますから。

法友倶楽部創立90周年記念事業の準備状況について

法友倶楽部創立90周年記念事業実行委員会
事務局長 後岡 良知 (33期)

法友倶楽部創立90周年記念事業の準備状況についてご報告します。法友倶楽部では、昨年9月、令和2年11月16日に90周年の記念式典・祝賀会を開催することを決定し、その後、式典・祝賀部会、親睦部会、講演部会、記念誌アルバム部会、財務部会で、各行事等の企画、準備に精力的に取り組んできました。

ところが、本年2月頃から、新型コロナウイルスの影響で、各種行事が制限されるなか、このまま予定どおり記念事業を実施するのは困難であるとの考えから、本年6月開催の実行委員会で、コロナ禍でも継続して検討可能な記念誌・アルバム部会の活動を除いて、他の行事は、全て延期することを決定しました。

その後、いまだコロナの先行きが不透明ななか、9月の実行委員会で、90周年記念事業の今後について、委員の皆さんの意見を伺いましたところ、コロナ禍でもやれるところは、しかるべき対策をして、やるべきではないかとの意見が多数を占めました。

そして、10月の実行委員会で、90周年記念事業について、以下の方針が決定されました。

- ・ 式典・祝賀会の開催の可否については、コロナの感染状況等の様子を見て、来年3月の実行委員会で決める。開催するとしても、コロナ禍における弁護士会の集会等についての方針を踏まえた内容とする。
- ・ 講演については、開催に向けて準備を進める。ただし、開催要領等については、大阪弁護士会の会議、集会等に関する方針を遵守したものとする。
- ・ 記念誌については、これまでどおり準備を継続する。
- ・ 親睦行事については、コロナの感染状況を踏まえ参加人数、内容等を工夫して企画する。

コロナ禍で困難な状況ですが、皆で力を合わせ、90周年記念事業を、ぜひ成功させようではありませんか。会員の皆さんの、ご理解とご協力を賜りますようお願いする次第です。

活動報告 推せん委員会

新しいスタイルで開催しました

田中 章弘 (64期)

令和2年8月20日、第2回推せん委員会が開催されました。第2回推せん委員会の開催に先立ち、中嶋勝規会員(54期)より、次年度の大阪弁護士会副会長への立候補届が幹事長に提出されました。

そこで、第2回推せん委員会では、

- ① 中嶋勝規会員を次年度の副会長候補者として推せんすることの可否と、
- ② 林裕之会員を次年度の法友倶楽部幹事長として推せんすることの可否

が議題となりました。例年、推せん委員会は、弁護士会館の2階の会議室を利用して、多数の委員が一堂に会する形で開催されていました。しかし、今年度は、新型コロナウイルスの流行に鑑みて、役員候補者推せんに関する法友倶楽部の規則を弾力的に解釈して、Zoomと弁護士会館での会議を併用する形で推せん委員会を開催しました。

副会長候補者の推せんに関しては、福原会員、魚住会員及び塚崎会員による推せんの弃の後、中嶋会員より、弁護士自治や会派の求心力などに関する熱いお考えが表明されました。

そして、竹岡会員をはじめとする委員の方々から温かい激励の言葉が寄せられました。決議の結果、満場一致で、中



竹岡会員

嶋会員を次年度副会長候補者として推せんすることが決議されました。併せて、林会員を次年度幹事長として推せんすることも満場一致で決議されました。林会員からは、「次年度は林色に染めます」という力強い抱負が表明されました。



中嶋会員、Zoom併用で開かれました

親睦企画 みんなで早押しクイズ大会

北岡 裕章 (55期)

8月26日、法友倶楽部の親睦委員会主催行事として早押しクイズ大会が開催された。この大会は、リモートでの親睦を深めるために企画されたもので、Zoomで各所をつないでコミュニケーションを図りつつ「みんなはや」という早押しクイズアプリを各自のスマホ等に導入してクイズ大会を行うという前例のない試みであった。

参加者には、事務員と共に事務所チームで参加する方、自宅で家族と参加する方、事務所で一人で参加する方など各自のスタイルで参加することとなった。常に「勝ち」にこだわる当事務所は、当職ほか精鋭の事務3名を招集して参加し、事務所の通信速度向上を図るなど万全の対策を講じて本大会に臨んだ。



クイズ大会で利用したアプリ

実戦では各自端末に集中し静寂の中での白熱した戦いが繰り広げられた。途中、Zoomから子供の声が聞こえたり、当事務所の電話が鳴るなどしたが全く無視して試合に没頭した。その結果、当事務所は、第1試合で事務川口、大田がワンツーフィニッシュを飾り、第2試合でも事務川口が優勝して2連覇を飾った。第3試合ではさらに白熱した戦いが繰り広げられ、金先生が優勝を飾り、当事務所からは事務大田が2位に食い込んだ。

3試合で今回の大会は終了し、当事務所は豪華賞品を多数いただくことになり、その責任を取って当職が本稿を執筆することとなった。

本企画では井崎先生ほか親睦委員会の先生方のご準備に当たられ、各参加者の事務所やご家庭の雰囲気垣間見ることができ、親睦を深めることができた。この企画をされた先生方にはこの場をお借りしてお礼を申し上げたい。

法曹交流委員会OJT制度のご案内

山崎 道雄 (60期)

法曹交流委員会委員長の山崎です。法友倶楽部OJT制度について、ご案内致します。

本制度は、法友倶楽部内でOJTチューターと受講者をマッチングし、会派内で弁護士業務のOJTを実現しようという試みです。OJTの対象事件に特に制限はなく、お申し入れがあれば、法曹交流委員会が中心となって積極的にマッチングさせていただきます。詳細は、令和2年7月1日19時23分に法友倶楽部メンバーリストに配信された「[hoyuclub:04012] ★重要★法友倶楽部OJT」もご参照ください。

【特にジュニア部の先生へ】

若手弁護士にとっては、経験のない分野をチューター付きで体験でき、スキルアップや業務拡大につながる貴重な制度です。また、他事務所の先輩会員と交流ができるまたとない機会となるはずです。

【特に親会の先生へ】

若手は遠慮しがちで、なかなか手があがらないかもしれません。親会の先生方におかれましても、スポットで共同受任をしたい等のご要望がございましたら、是非ともご連絡ください。

本制度に少しでも興味がある、OJTを希望する及びその他ご質問・要望等がある場合は、当職宛にDMでご連絡くださいますようお願い申し上げます。

アドレス：m-yamazaki@risshin-law.com



OJTを機に意気投合した羽田会員と石坂会員

緊急特集

中嶋勝規会員座談会

藪根 壮 一 (64期)

スキーとともにあった青春

藪根：中嶋先生と言えばスキーですが、スキーとは長いお付き合いなのでしょうか？

中嶋：そうですね。地元の滋賀県も雪が降るので、子どもの頃は校庭で雪像づくりのような行事もありました。

塚崎：信楽では、そんなに雪が降るのですか？

中嶋：いや、うちは、信楽じゃなくて、もっと北の方です。今はそれほど積もりませんが、子どもの頃は、腰の高さくらいまで雪が積もっていましたよ。小さい頃は、自分で雪かきをして道を作らないと学校に行けませんでした。

塚崎：福井でも、一晩で30～40センチ積雪することはよくありました。

中嶋：小さい頃は、外で遊んでいたから、よく霜焼けになりましたねえ。子どもの頃から新聞配達のアルバイトをしていたので、冬は大変でした。

塚崎：やっぱり、スキーで配達されていたのですか？

中嶋：さすがに違います。スキーは、伊吹山のスキー場に行っていました。普段は、近所の滑り台や学校の近くの坂道で、ミニスキーをして遊んでいました。

塚崎：ああ、ミニスキーですね。青とか赤のプラスチックでできていて、普通の靴で履いて遊んでいましたね。

ところで、今の中嶋先生の印象は、表向きはちゃんとしている人だと思えますが、小学生の頃はどんな子どもだったのですか？

中嶋：小学生の時は、教室の後ろでキャッチボールをして遊んでいたりするような子供でした。

塚崎：しかし、担任の先生から見たら、勉強もできるし、運動もできるから信頼されていたのではないで

すか？

中嶋：いつも教室の後ろで遊んでいるのに、テストではそれなりの点数を取るので、かわいげがないと言われた



中嶋勝規会員

ことがありますね。今から振り返って、自分の娘が当時の私と同じことをしていたらと思うと、複雑ですね。

藪根：大学に入られて、本格的にスキーにのめり込んでいかれた訳ですか？

中嶋：ちょうど、大学に入る頃に、アルペールビルオリムピックを見て、萩原選手が活躍していたのは印象に残っていました。とは言え、大学に入学すると、アメフトやラクロスなど色々な部活の勧誘を受けました。その中で、スキー部の先輩が可愛かったのが決め手で、スキー部に決めました。

藪根：当時は、学生の中で、スキーが盛んだったのですか？

中嶋：90年代は、大勢の学生が夜行列車のシュプール号でスキー場に行っていましたね。

藪根：シュプール号というのは、何ですか？

中嶋：夜に大阪を出て、翌朝には信州に着く電車でした。もう廃止されたので、若い人には、想像しにくい文化ではないかと思えます。当時は、学生にとって、スキーに行きやすい環境がありました。そうは言っても、冬場にスキーをするためには、それなりにお金がかかるので、夏場はずっとアルバイトをしていました。

塚崎：中嶋先生は、どんなアルバイトをされていたのですか？

中嶋：学習塾でも教えていましたし、肉体労働もたく



さんしました。レストランで働いたこともありますし、治験バイトでよくわからない薬を飲んだこともあります。

塚崎：薬は今も飲んでおられるのですか？アルバイトの場所は、三ノ宮が多かったのですか？

中嶋：学習塾は三ノ宮が多かったです。六甲アイランドで、朝の6時くらいから、1時間半くらい、ひたすらオフィスのゴミを回収する仕事もしていました。あとは、駐車場の夜の警備の仕事も時給が高いのでずっとしていました。朝のオフィスのゴミ集めと夜の駐車場の警備の仕事は、受験生時代も続けていましたね。

藪根：ちなみに、冬場は、どれくらいの頻度でスキーに行っておられたのですか？

中嶋：冬場は、4ヶ月ほどずっとスキーに出て、試験前に神戸に帰ってくる生活でした。

法曹を目指したきっかけ

塚崎：中嶋先生は、いつ頃から、司法試験を受けて弁護士を目指そうと思われたのですか？

中嶋：小学校の時に、学校の先生から、弁護士という仕事があると聞いて、文集に、将来弁護士になりたいと書いたことがありました。でも、当時は、弁護士という仕事の内容はよく知らず、ドラマの世界の仕事というイメージでした。ただ、法学部に進んだのは、その頃の思いが残っていたからです。しかしながら、大学進学後はクラブ活動に明け暮れていたことと、神戸大学には司法試験を受ける人も少なかったため、司法試験は意識の外に置かれることになりました。そして、普通に就活をして、志望していた会社から内定ももらっていました。ただ、卒業が近づくとつれこのまま就職して当初の目標を諦めて

いいのかなと思うようになり、内定先に、司法試験を受けたいので、内定を辞退させて頂きたいとお願いしました。もっとも、内定を辞退した時点で、司法試験を受けたことはありませんでしたし、法律の「ほ」の時もわからない状態でした。それから、4年生の最後のスキー合宿を終え、大学を卒業してから本格的に受験勉強を始めることになりました。

塚崎：受験勉強中は、実家に戻っておられたのですか？

中嶋：そのまま神戸に残って、駐車場の警備などのアルバイトをして、生活費を稼ぎながら、勉強をしていました。

会務への想い

塚崎：中嶋先生は、民暴委員会で活躍されていますが、早い時期から、暴力団対策に興味があったのですか？

中嶋：私は、三重修習でしたが、当時、弁護修習の指導担当の先生が三重の民暴委員会で熱心に活動している方でした。指導担当の先生には、警察との会議など色々と経験をさせてもらいました。もっとも、登録当初は事務所の事件処理も忙しかったので、本格的に委員会活動に取り組むようになったのは、3年目くらいからでした。

藪根：事件処理で大変お忙しい中で、会務にもしっかりとコミットされるようになったのはなぜですか？

中嶋：やっぱり、会務は、弁護士自治の根幹です。誰かがやってくれるから任せておいたらいいという考えだと、弁護士会が回らなくなりますし、弁護士自治すら取り上げられてしまう可能性もあります。自治部門の会務に携わり、そんな思いを強くしたことが大きいかと思います。

塚崎：ちなみに、中嶋先生は、大型倒産事件にも関与されていますが、どういった経緯で共同受任されるようになったのですか？

中嶋：最初は、申立時等の、現場の保全の手伝いなど短期間のスポットの仕事を、その後は、補佐や代理の形で仕事を手伝わせて頂けるようになりました。倒産法の勉強会等で多くの先生方と面識が出来たことがきっかけだと思います。

独立しました

ばんな
万和法律事務所

略儀ながら書面をもちまして ご報告いたします

福本 隆史 (66期) / 中島 裕一 (66期)
西本 雄大 (66期・差出人)

拝啓 法友倶楽部の皆様

時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

先日、私の親愛なる同期の福本、中島両弁護士が新たに設立した事務所へ訪問し、独立のあれやこれやを聞いてまいりましたので、ご報告致します。なお、かわら版となり紙幅の関係上、お手紙にて失礼致します。



中島会員(左)と福本会員

事務所名は、万和法律事務所です。「よろずの者に和をもたらす」という意味だそうです。最初はかっこつけて語っていましたが、掘り下げていくと、結局、漢字二文字にしたかったという理由と新元号の候補に挙がっていたということ

で、二人で飲みながら決めたようです。なんとも二人らしいですね。

内装で特にこだわったのは、大会議室の壁一面のホワイトボードだそうです。打合せの際、壁に落書きを始めたと依頼者が驚くようです。

事務所の将来像について聞くと、二人とも、「各々が得意分野を持った少数精鋭の事務所」を目指したいということでした。最近ではIT、介護、不動産などの企業の法務に注力しつつあるようです。

令和2年7月22日の事務所開きの盛宴で、法友倶楽部の先生方をはじめ100名を超える多数の方にご参加いただいたことを大変感謝しておりました。今後とも、同期二人の益々の活躍を温かく見守ってください。
敬具

独立しました

みと総合法律事務所

独立しました

水戸 章博 (64期)

64期の水戸章博と申します。

私は、令和2年1月末日付で、それまで所属しておりましたアップル法律事務所を退所して、北向かいのビルにて、みと総合法律事務所を開所して、同所での業務を開始しました。

漠然と、いつかは退所しないとイケないと思いつつも、具体的なことは何も考えていませんでした。そんな中で、ふいに、独立することを思い立ち、約3か月での新出発となり、今に至ります。

退所の際には、全く予期していませんでしたが、その後、アップル法律事務所は、所長である上條博幸弁護士の死去に伴って、閉所することになりました。この場をお借りして、これまでお世話になりましたことに御礼を申し上げるとともに、ご冥福をお祈り申し上げます。

そして、これまで、一般民事、破産、刑事事件等、様々な分野の業務を経験してきました。事件処理のことはもちろん、それ以外のことについても、様々、貴重な経験をさせていただきました。それらの経験を生かしつつ、また、その他の業務分野にも挑戦する等して、自分なりに得意分野・専門分野を見つけていきたいと考えております。

今後とも、ご指導・ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。



花の会 「中嶋先生を囲む会」を開催しました

奥村 雅美 (62期)



「花の会」は、法友倶楽部の会員のうち、女性会員が集まって、一緒にランチをしながら、花の会の先輩方の経験談を聞かせていただいたり、仕事や家庭に関する情報を交換したりといったことをする会です。

今年は新型コロナウイルスの影響で、皆で集まることが難しく、4月にWEBお茶会が開催されたばかりでしたが、2020年10月19日、レストラン sumile OSAKAの風通しの良いテラス席で、次年度副会長候補として推せんされた中嶋勝規先生をお招きし、第1回花の会が開催されました。

中嶋先生から、立候補を決意されるに至った経緯、副会長として実現したいこと等をお聞かせいただき、また、花の会会員からも、弁護士会に期待することや質問、応援メッセージが向けられました。

いつも明るくパワフルで統率力のある中嶋先生のお人柄もあり、色々なお話を伺っているうちに、気づけばあっという間に2時間が経過していました。

今年、お正月を除いて事務所に行かなかった日はないかも、とのことで既に多忙を極めておられる中嶋先生、来年度は副会長業務も加わり、益々お忙しい1年となりますが、健康にもお気をつけて頑張ってください！

花の会のためにかなり前から日程を確保していただきました中嶋先生、会場設定や諸連絡等お世話になりました矢口先生、有難うございました。

祝 藪根先生ご結婚祝い

石坂 省悟 (64期)

藪根先生から待望の結婚をした、との報告を受けたので、同期の石坂、田中が話を聞いてきました。本来であれば、本誌にて3頁程こと細かく書き連ねたい気持ちがありましたが、紙面の都合上泣く泣く割愛しました。

藪根先生とは登録当初から9年間の付き合いで、共に深酒をし、会派旅行中に相撲に興じた仲で、お互いジュニア時代に生涯の伴侶を見つけることができるか不安に陥っていたところ、藪根先生は奥様と出会うことになりました。

遡ること令和2年2月12日、藪根先生が懇意にしている司法書士の先生のご紹介により二人は出会いました。

当時、藪根先生から随時報告を受けていたのですが、生き生きとした表情で、交際相手の女性を温かい人柄でしっかりした女性だと話していましたので、○な藪根先生にはぴったりの方という印象でした。

その後、4月4日に夙川で花見をしたときに交際を開始し、7月19日に尾道にてプロポーズをして婚約し、晴れて11月16日に婚姻することになりました。

藪根先生は田中先生と共同受任していた裁判員裁判を経る中で、交際から婚姻に至ったこともあり、奥様という時間より被告人の方と一緒にいる時間が長かったそうで、弁護士として頼りがいがありますね。

お二人は、阿倍野区で新婚生活を始めていますので、お近くにお越しの際は、一声かけた上で是非お立ち寄りください。





第11回 満村和宏 先生
伝統の名店～カラコール～

羽田 伸矢 (71期)

今回はバーベキューラウンジ「ノクターン」にお邪魔しました。店員さんに眺めの良いテラス席に案内され、4人そろったところで、ビールで盛大な乾杯をしました。しかし、次の瞬間には石坂先生と藪根先生のグラスが空になり、追加のビールを注文していました(笑)。その後はジューシーなお肉や新鮮な魚介を焼きながら、満村先生の若かりし頃の苦労話や法友倶楽部のHPのお話の花を咲かせていました。最後はココナッツミルクにフルーツが入った名称不明のドルチェをおじさん4人でいただきました。



2軒目は満村先生行きつけの「カラコール」。私は初めてでしたが、落ち着いた雰囲気でおいしいお酒を提供してくれる素敵なお店でした。

石坂先生と藪根先生はエンジンがかかってきたようで、二人でKinKi Kidsを熱唱されていました。私も十八番の「Lemon」で参戦です。

次に、満村先生の番が回ってきました。選曲は齊藤和義の「歌うたいのバラッド」。私は満村先生の歌を聞いたことがなかったのですが、その美声に酔いしました。そのときばかりは雰囲気を壊さないよう得意のタンバリンも封印せざるを得ませんでした。

その後は、終始元気なお二人の暴走を必死に食い止める私を眺めてお酒を飲む満村先生の図でしたが、店を壊さないうちにとお開きになりました。

グルメ手帖というよりただの飲み会でしたが、面白く貴重なお話を聞かせていただき、満村先生ありがとうございました。

編集後記

今回も簡易版「法友かわら版」をお送りする運びとなりました。

通常版に比べて、紙面は少ないのですが、工夫を凝らしてアップトゥデートな記事を掲載しました。

若手中心の編集委員が頑張ってくれました。コロナ禍の中、これからは広報の充実を図って参りますので、ご支援ください。

広報委員会委員長 満村和宏

私は、今号で初めて法友倶楽部の広報誌の編集長の職を拝命しました。コロナウイルスの流行の影響により、会派の行事を大々的に開催できない状況が続いています。このため、今号においても、行事報告の記事は少なくなっております。しかし、制約が多い中でも、知恵を絞って会派の運営のために不可欠な行事は実施されています。そこで、将来、万が一、我々がこの度の大流行に比肩する問題に直面した際、何らかの参考になる情報を残したいという想いで今号を編集しました。

また、今号では、次年度、さらなるご活躍が期待されている中嶋勝規先生の人となりに迫る緊急特集記事を掲

載しました。今号を通じて、中嶋先生の会務にかける想いを一人でも多くの方に知っていただければ幸いです。

編集長 藪根壮一

法友かわらばんになり、記事の分量が大幅に減少していますが、手に取って気軽に目を通すことができるので、会報誌「法友」の時代よりも比較的多くの会員に読んでいただけると期待しています。

この度、藪根編集長と羽田副編集長でスムーズに編集作業ができましたので、若手会員の皆様も積極的に編集委員に入っていただければ幸いです。

副編集長 石坂省悟

今回、初めてグルメ手帖の記事を作成させていただきましたが、お酒も入っていたこともあり、どのような話をしたかを思い出すのが大変でした。ただ、少しでも会員の皆様が行ってみたいと思えるような記事にしたいという思いで作成いたしました。今回紹介したお店に少しでも行ってみたいと思っただけであれば幸いです。

副編集長 羽田伸矢